

次世代へとつなげたい 里山里海から学ぶこと

国連大学サステナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット (UNU-IAS OUIK) は、豊かな自然と文化が残る石川県を拠点に、地域に根ざした研究を柱とし、地域から国際的な議論や課題解決に貢献するためのさまざまな活動をおこなっています。OUIKが発行した里山里海への理解を深める新しい出版物をご紹介します。

Topic 1

地図を通して地域を見る目を養い、地域に寄り添う

現在、里山里海を抱える地域は、農林水産業の変化、頻発する災害への対応、文化的な営みや資産の消失、人口減少など多くの課題にさらされています。それらに真摯に、かつ持続的に向き合い、自然との新たな関係性を創造していくためには、地域を見る目を養うことと、地域に寄り添って行動することの両者の視点が求められます。つまり、地域の「見方」を学び、地域の「味方」になることです。このマップブック「地図から学ぶ北陸の里山里海のみかた」では、自然環境、農林水産業、地域資源、人口などがどのように分布しているのか、どこで変化しているのかを知ることができます。これからの地域づくりの担い手である、高校生や大学生、若手行政職員、地域活動を進める若者などに活用してもらうことを意図して発刊しました。マップブックを手に実際に現地を訪れ、地域の実状をじっくりと観察することをお勧めします。

(編著者/文：飯田義彦)



以下のサイトからダウンロードが可能です。 http://collections.unu.edu/eserv/UNU:6540/UNU-IAS_OUIK_BCD_Booklet_4_Satoyama.pdf (2018年6月発行)

Topic 2

絵本から学ぶ能登の暮らし、感謝の気持ち

「ごっつおをつくろう」は、世界農業遺産 (GIAHS) に指定されている「能登の里山里海」に住む子供たちに能登の暮らしを支える昔ながらの知恵や自然の面白さや不思議などを伝える絵本です。能登地域 GIAHS 推進協議会、UNU-IAS OUIK が、小中学校での GIAHS をテーマとした教育の普及を目的として、地域の専門家や住民の協力を得て制作しました。この絵本は、能登に住む姉弟が一年を通して祖父母に暮らしの知恵や自然について教わりながら秋祭りのごっつお (ご馳走) 作りを体験するという内容で、小学校の低学年向けに作られています。この絵本を通して、どのように地元で食材が育てられ、調理されているのかを知り、地域の人々の営みや自然、食べ物に感謝する気持ちを子供たちに育んでほしいと願っています。そしてこの絵本をきっかけに、能登ならではの環境を活かした体験型の教育を発展させていきたいです。

(著者/文：小山明子)



絵本はこちらから全文ダウンロードしていただけます。教育現場などでぜひご活用下さい https://collections.unu.edu/eserv/UNU:6628/GIAHS_kids_book.pdf (2018年3月発行)